

2024年1月8日 2024-1版

肺腺腫の感受性に関わる遺伝子多型の研究

1. 研究の対象

2004年2月から2011年4月までに国立がん研究センターがん予防・検診研究センターに検診を受けた方の内、遺伝子解析を含めた予防・検診研究についての文書及び口頭による説明を受け、自書により同意して頂いた受診者さんから提供して頂いた血液試料DNAを研究に用います。

2. 研究目的・方法

研究の概要：

肺がんはがん死因の一位であり、年間に本邦で7万人、全世界で137万人の死をもたらす難治がんです。肺がんの早期発見は難しく、また根治的手術を行ってもしばしば再発することから、新たな予防法の開発・罹患危険度の診断の方法が必要です。

肺腺腫は肺腺がんの前駆病変と考えられていますが、肺腺腫が発生する環境要因や遺伝的要因については不明な部分が多く、また肺腺がんの発症要因との違いの有無もよく分っていません。そのため、喫煙等の環境要因に加えて、個々人の固定リスクとしての遺伝的要因の理解が必要です。本研究では、肺腺腫への感受性を規定する遺伝的要因・環境要因を明らかにすることで、肺がんの新たな予防法の開発を目指します。

研究の意義：

本研究で得られる結果は、新たな肺がんの予防法開発のための基盤情報となります。

研究の目的：

肺腺腫感受性を規定する遺伝子多型・環境要因を同定することにより、肺がんの新しい予防法開発に向けた基盤情報を得ることです。

研究の方法と内容：

血液より抽出したDNAの遺伝子型を決定します。具体的には、TaqManアッセイ、DNAチップ、サンガーシークエンスなどを用いて解析を行います。多型の分布について、CTにて肺腺腫が認められた群と肺腺腫が認められなかった群を対比させることで、肺腺腫の易罹患性・病態を規定する共通して認められる個人差を同定します。

研究許可日から2025年3月31日としています。ただし、研究の進行状況等により延長する場合があります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：質問表に記載されている年齢、性別、喫煙歴等といった生活習慣情報、家族歴、検診やフォローアップ時に撮影されたCT画像情報等

試料：血液由来 DNA

4. 試料・情報の公表

試料やゲノム情報等の公開は予定していません。対応表は、当センター社会と健康研究センターの個人情報管理者が責任をもって保管・管理します。但し、主たる研究成果は学会および英文誌で公開いたします。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先および研究責任者：

〒104-0045東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 河野隆志

TEL: 03-3542-2511/ FAX: 03-3542-2530

研究代表者：

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 河野隆志